

湘南国際村の活性化について

1 目的

湘南国際村は平成6年に国際交流拠点として開村したが、人口減少や高齢化が進んでおり、将来を見据え、湘南国際村の活性化及び持続的な発展に向けて、三浦半島全体の中での位置付け、県・横須賀市・葉山町の政策との連携、民間活力の活用等の観点から湘南国際村のあり方を検討する。

今後、委員会での検討結果や住民の皆様のご意見等も踏まえた上で、湘南国際村基本計画における土地利用方針の見直しを行い、民間活力も活用しながらにぎわいを生み出すことで、三浦半島全体の活性化につなげる。

2 これまでの取組

(1) 住民及び入村機関等との調整状況

平成29年10月～平成30年2月 入村機関ヒアリング及びアンケート

平成30年3月～ 湘南国際村活性化検討委員会（10月までに7回）

6月 住民、入村機関との意見交換

8月 住民へのアンケート

(2) 住民へのアンケートの実施

8月に327世帯に配布し、103世帯（31.5%）から回答を得た。

（主な意見）

- ・ 緑豊かで静かな環境が保たれることを望む。
- ・ 高齢者用の住宅や、福祉施設等ができればありがたい。
- ・ 若い世代と高齢者が共生できる村になってほしい。
- ・ 国内外を問わず多くの人々が訪れたい、魅力ある環境を作ることが必要である。人が集まれば活性化していく。

3 目指す姿

(1) 湘南国際村の基本構想である「緑陰滞在型の国際交流拠点」としての理念を堅持しつつ、将来にわたる国際交流拠点としての継続を目指す。

(2) 湘南国際村は三浦半島の中心部に位置していることから、三浦半島の周遊の拠点としての位置付けを付加。

(3) 緑の交流機能を高め、「全体が緑豊かな公園のような村」を目指す

これらによって、湘南国際村の活性化及び持続的な発展、ひいては三浦半島全体の活性化につなげる

4 新たな展開

(1) 機能強化の視点

目指す姿を実現するため、今後、次のような視点で取り組む

ア 三浦半島全体の活性化

- ・ 魅力向上、交流人口の増加、ひいては生活環境の向上
(湘南国際村の魅力をさらに向上させると同時に、発信力を強化することで、三浦半島の他地域と連携しながら交流人口(その地域を訪れる人)を増やす。それによって民間投資を促進し、サービスの提供や生活環境の向上につなげる、という好循環を生み出す)

イ 県・横須賀市・葉山町の政策との連携強化

- ・ 県で行っている未病改善などの取組みや、横須賀市、葉山町が行っている政策と、村内で行う事業との連携を強化

ウ 湘南国際村センターの更なる活用

- ・ 入村機関の連携を進めるほか、企業等の活動、住民の皆様の交流の場として更なる活用を図る

(2) 強化する機能

ア 国際交流拠点としての一層の機能強化

- ・ 外国語教育を進めるなど、基本構想に掲げた「国際交流拠点」としての機能を強化

イ 自然環境の再生と保全、活用の促進

- ・ 大楠山に連なる豊かな緑の空間が広がるBC地区の自然環境の再生と保全に取り組むとともに、活用を図る

ウ 回遊性の向上(観光ゲートウェイ)

- ・ 三浦半島の中心部に位置する強みを生かし、葉山、横須賀、逗子、鎌倉、三浦といった観光地との回遊性を向上させる拠点、観光ゲートウェイとしての機能を強化

エ 情報発信の強化・湘南国際村ブランドの維持向上

- ・ 湘南国際村における取組の情報発信を強化することで、交流人口の増加を推進するだけでなく、村内外の機関による新たな連携を促進
- ・ 相模湾と富士山を望む眺望を誇る、湘南国際村の持つブランド力を維持
- ・ さらに、最新技術やサービスの導入を図り、最先端のまちづくりを目指すほか、自然を活用した文化、芸術、スポーツ、レクリエーション機能の付加を図ることで、ブランド力をさらに向上

目 次

第1章 湘南国際村の理念と村づくりの推進

第1節 湘南国際村づくりの基本方針	1
1 目的と意義	1
2 村の完成イメージ	1
3 村で展開する機能	1
4 地域への貢献	1
第2節 湘南国際村をとりまく状況	2
1 経緯	2
2 湘南国際村の現状	5
3 社会・経済状況の変化と湘南国際村の課題	7

第2章 湘南国際村づくりの新たな展開

第1節 新たな展開の考え方	13
1 基本方針	13
2 地区の方針	13
第2節 新たな展開に必要な機能	15
1 A地区の現在の機能の位置付け	15
2 B地区及びC地区の現在の機能の位置付け	15
3 新たな展開	16
4 基本計画の改訂の方向	17

(裏面) 白紙

第1章 湘南国際村の理念と村づくりの推進

第1節 湘南国際村づくりの基本方針

1 目的と意義

- ・ 昭和60年3月「湘南国際村基本構想」を策定
- ⇒ 目的と意義を「湘南国際村は、国際的視野に立脚した学術研究、人材育成、技術交流、文化交流の推進という相互に関係の深い四つの基本的目的を持ち、多様な交流を展開することにより、国際社会に貢献するとともに、地域社会の発展に寄与する多目的な滞在型の国際交流拠点とする。」と位置付け

2 村の完成イメージ

- (1) 「全体が緑豊かな公園のような村」
- (2) 「知的創造活動が行われる村」
- (3) 「国際色豊かな楽しいコミュニティ」
- (4) 「高度情報の発信・受信の拠点」

3 村で展開する機能

- (1) 学術研究
 - ・ 研究機関の誘致等
- (2) 人材育成
 - ・ 多様な分野の研究・研修機関
- (3) 技術交流
 - ・ 民間研究機関の集積
- (4) 文化交流
 - ・ 生活レベルでの交流活動と国際的な各種文化交流活動の展開

4 地域への貢献

- (1) 抜本的な防災対策
- (2) 地域の発展を目指す地域振興プロジェクト
 - ・ 国際的な施設や研究所、研修所の集積による地域交流の活性化
 - ・ 地域の雇用機会の拡大と地域経済の活性化に寄与

第2節 湘南国際村をとりまく状況

1 経緯

(1) 当初基本計画（昭和63年3月策定）が改訂されるまでの経緯

- ・ 昭和60年 基本構想を策定
- ・ 昭和63年 当初の基本計画を策定

A地区	「村のイメージを早期に形成するシンボル地区」
B地区	「村全体の交流の中心地区」
C地区	「大楠山の緑を活用した地区」

- ・ 平成元年 株式会社湘南国際村協会が設立
- ・ 平成6年 湘南国際村センターが完成し、湘南国際村が開村
- ・ 平成8年 まちづくりを将来にわたって法的に担保するため、建築物の用途の制限などを定めた地区計画を横須賀市及び葉山町がそれぞれ決定

(2) 現行基本計画（平成18年10月策定）が目指すもの

- バブル経済崩壊後の社会経済状況の変化や企業活動、研修施設に対する企業意識の変化等、湘南国際村を取り巻く環境が大きく変化
- 研究・研修施設や商業施設の立地が進まない状況
⇒ 平成18年 当初の基本計画を改訂

【概要】

基本構想の理念を堅持しつつも、国際交流を深めるとともに、村内に居住する住民、村で働く就業者への生活支援、あるいは生活利便性の向上に必要な新たな展開を図ることにより、湘南国際村の早期熟成と湘南国際村事業の完了、さらに、将来にわたる国際交流拠点としての継続を目指す

[A地区]

「村の理念を実現する地区」として新たに位置付け、B地区及びC地区で計画していた交流機能をA地区へ集約し、湘南国際村機能の充実を図るほか、既存緑地に隣接する地区を「教育・健康・福祉施設地区」とし、教育、スポーツ、医療、福祉施設等を許容するなど、土地利用計画を見直し

[B・C地区]

「大楠山の緑を活用した地区」と位置付け、緑の再生と保全を図り、村内居住者や来村者が憩い、安らぎ、学び、交流するとともに、健康を育む場としての緑の空間の創造と、緑陰滞在型の国際交流拠点としての機能向上を高める地区とした

- 基本計画の改訂を受けて、横須賀市が地区計画を変更

(参考) 現行の基本計画等のイメージ図

① 構想 <目指すすがた> = 「基本構想」 S60

- ・ 国際的視野に立脚した「学術研究」「人材育成」「技術交流」「文化交流」という相互に関係の深い四つの基本的目的を持ち、多様な交流を展開することにより、国際社会に貢献するとともに、地域社会の発展に寄与する多目的な滞在型の**国際交流拠点**とする

② ビジョン (コンセプト) <構想を実現するための具体的な考え方 (方針) > = 「基本計画」 S63、「改訂基本計画」 H18

- ・ A 地区の方針 = 「湘南国際村機能の充実を図る」「国際交流拠点として**将来にわたって持続していくようなまちづくり**を目指す」
機能の位置付け 「研究・研修機能」「居住機能」「商業・業務機能」「教育・健康・福祉機能」「公共公益機能」
- ・ BC 地区の方針 = 「『大楠山の緑を活用した地区』と位置づけ、**緑の再生と保全**を図り、村内居住者や来村者が**憩い、安らぎ、学び、交流する**とともに、**健康を育む場**としての緑の空間の創造と、緑陰滞在型の国際交流拠点としての機能向上を高める」
機能の位置付け 「防災機能」「交流機能」

<土地・建物の枠組み> = 「地区計画」 (横須賀市、葉山町)

- ・ 横須賀市 = 「研究・研修施設地区」「生活支援施設地区」「住宅地区」「商業・業務地区」「公共公益施設地区」
- ・ 葉山町 = 「研究・研修施設地区」「商業・業務施設地区」「公共公益施設地区」

③ 施策 (コンテンツ) <具体的な取組み> = 個別の事業

(3) 前回（平成 18 年）の改訂後の主な歩み

[A 地区]

- ・ 基盤整備が整い、研究・研修機関等の立地が概ね完了し、多くの企業研修や学会、国際会議が開催
（例）湘南国際村センターにおける国際会議：平成 20～29 年の 10 年間で 260 件
- ・ 福祉施設等の立地が可能となった地区に、2 つの福祉施設が立地
- ・ 消防署等の立地が可能となった地区に、横須賀市消防局南消防署の湘南国際村出張所が整備
- ・ 店舗等の立地が可能となった地区に、コンビニエンスストア等が立地
- ・ 店舗兼住宅等の立地が可能となった地区に、店舗兼住宅が立地
- ・ 住宅の建設が可能となった地区に、住宅が建設
- ・ 自治会館が整備
- ・ 逗子駅から湘南国際村を経由して佐島方面に向かうバスが平成 20 年に新設
横浜駅から湘南国際村を経由して横須賀方面に向かうバスが平成 18 年に新設、その後、増便

[B 地区・C 地区]

- ・ 基盤整備が整い、民間事業者から県に無償譲渡され、県有地となる
- ・ 「緑の再生と保全」の場として、植樹活動や里山保全活動などの取組みが開始
- ・ 大楠山に至る横須賀市道が整備され、登山ルートとなる

2 湘南国際村の現状

(1) 国際交流拠点としての施設の立地と活動状況

ア 湘南国際村センター

- ・ 国際村の中核施設
- ・ 国際会議場や研修室、宿泊室や飲食施設等を備え、緑陰滞在型の会議・研修施設として、国際会議、企業研修、地域フォーラム等で利用

(ア) (株) 湘南国際村協会

- ・ 湘南国際村センターの運営・管理を主たる業務
- ・ 国際会議の誘致・開催、企業研修の積極的な誘致活動を実施
- ・ 湘南国際村フェスティバル等、地域交流事業を企画実施

(イ) (公財) かながわ国際交流財団 (KIF)

イ 総合研究大学院大学

ウ (財) 地球環境戦略研究機関 (IGES)

エ 中央福祉学院 (ロフォス湘南)

オ 民間研修施設

カ 居住施設

滞在型の複合的な国際交流拠点としての湘南国際村の生活文化交流活動を担う

(2) 地域交流活動の状況

- ・ 地域における交流活動拠点としてチャリティ音楽会等の地域交流事業が開催
- ・ 5月に開催する「湘南国際村フェスティバル」は、湘南国際村における最大のイベント

ア 入村機関の連携

- ・ (公財) かながわ国際交流財団が中心となり、入村機関の連携により各種の事業を展開

イ スポーツ施設

- ・ 湘南国際村西公園は、テニスコート (5面)、広場、クラブハウスが整備

ウ その他の施設による交流

- ・ 業務施設としてMプラザ
- ・ 毎週日曜日には、地域の皆様による朝市 (湘南国際村センター前) が開催

(3) 湘南国際村のまちづくり

ア 美しいまちなみづくり

- ・ 美しいまちなみを育むため、「*まちづくりガイドプラン」を定め、景観や建築物等の意匠デザイン、緑化等に配慮したまちづくりを推進

イ 災害に強いまちづくり

- ・ 村の整備に合わせ、計画地及び計画地隣接部への抜本的な防災対策を実施

ウ 公園のようなまちづくり

- ・ 景観の保全と周辺の緑との調和に配慮し、地域に適した樹木を導入することにより村全体が公園のような緑豊かな環境を創造
- ・ 村の中央を東西南北に連絡する湘南国際村グリーンパーク（葉山町 2.3ha、横須賀市 0.91ha）が緑道公園として整備
- ・ 村の各施設用地についても、緑被率を公共施設 50%以上、民間系施設 41%以上、住宅用地 25%以上として緑の確保を図るとともに、敷地の外周部にセットバック緑地を設け、高木・中木・低木をとり混ぜて植栽し、緑豊かなまちなみを形成

エ 自然にやさしいまちづくり

- ・ 本来の植生やここに棲む小動物たちと共に生きる様々な工夫
- ・ 植樹活動や里山保全活動を実施

(4) まちづくりのための取組み

ア 湘南国際村運営管理組合

- ・ 村の自主管理組織として設立
- ・ 村の街区環境を形成する敷地内の道路沿いの緑地帯、グリーンパーク等の公園、汚水処理場等の維持管理を組合員の拠出する基金等により主体的に実施

イ 建築協定・緑地協定

- ・ 低層低密度の土地利用を基本に、「まちづくりガイドプラン」により、緑化や施設配置等の基本方針を定め、秩序立てたまちづくりを推進
- ・ 研究・研修施設地区にあっては、建築協定や緑地協定を土地の所有者が締結
- ・ 住宅地区及び商業・業務施設地区にあっては、緑地協定を土地の所有者が締結

ウ 地区計画（再掲）

- ・ まちづくりを将来にわたって法的に担保するため、平成8年に横須賀市及び葉山町がそれぞれ地区計画を決定
- ・ その後、平成18年の基本計画の改訂を受けて、横須賀市が地区計画を変更

3 社会・経済状況の変化と湘南国際村の課題

- ・ 平成 18 年の基本計画改訂から 10 年以上が経過し、三浦半島全体で人口減少、高齢化等が進展する一方で、今後、「海」や「食」などの魅力を生かして活性化を図っていく上で、湘南国際村は「周遊の拠点」となりうる場所
- ・ そこで、有識者等による「湘南国際村活性化検討委員会」を設置し、村全体の魅力を高め、活性化する方策等について検討するとともに、住民の皆様との意見交換などを実施
- ・ こうした場を通じて、湘南国際村における主な課題として次の点が挙げられている

(1) 交通

- ・ 逗子駅から湘南国際村センターへのバスが朝夕でも 1 時間に 2 本程度であり、京急汐入駅から湘南国際村センターへのバスは運行が全くない時間帯もある
- ・ バスは住民の通勤・通学のほか、研修者、従業員の足となっているが、研修が終了する夕方の時間帯などではバスが満員状態になり、乗り切れないケースも発生

(2) 商業施設

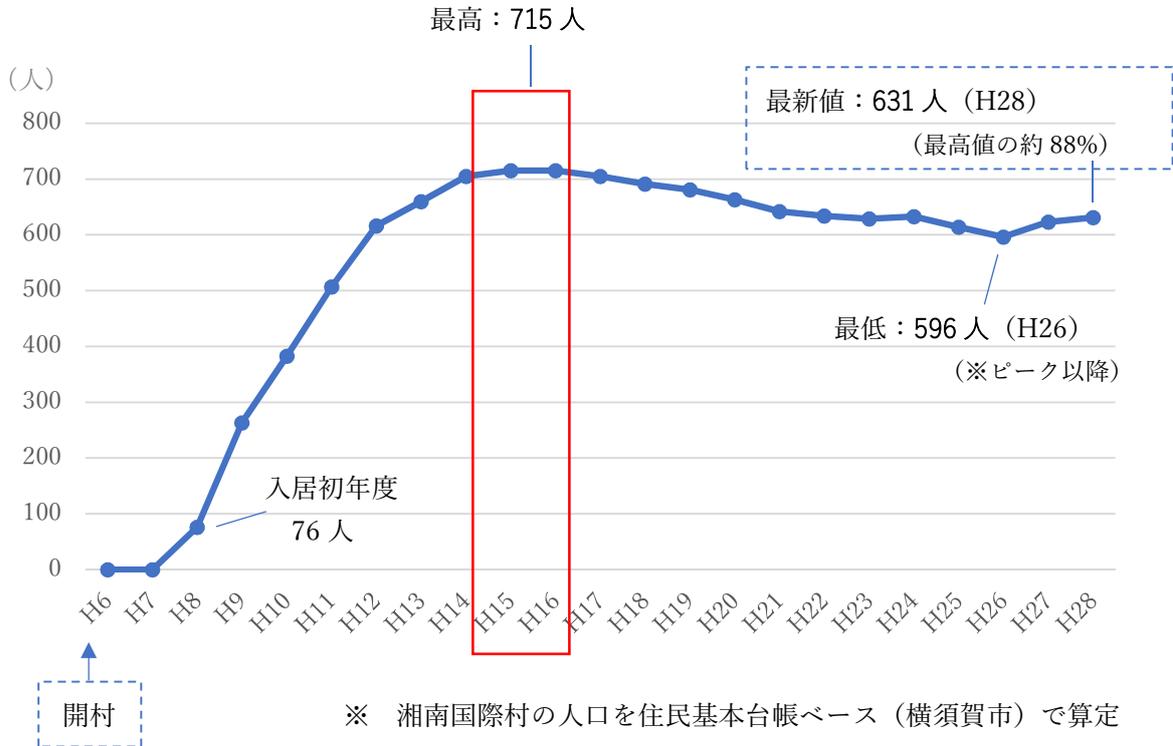
- ・ 平成 8 年から元町ユニオンが営業していたが、平成 25 年に閉店
- ・ その結果、湘南国際村内の商業施設はファミリーマート M・Y 湘南国際村店のみとなり、日用品の買い物は、バス又は自家用車を利用して近隣のスーパーに行かざるを得ない状況

(3) 医療機関

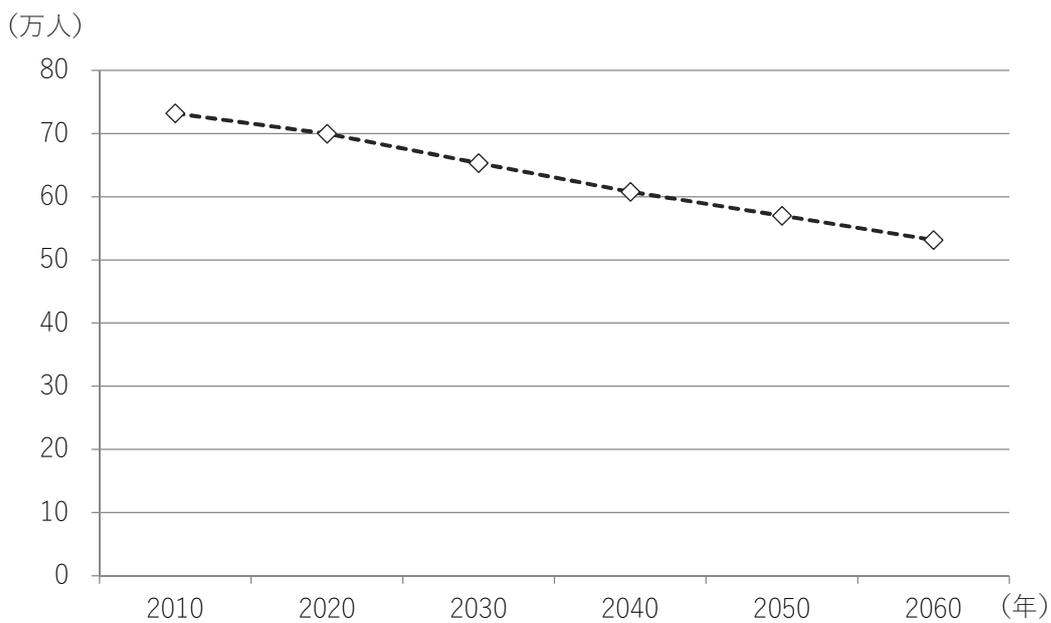
- ・ 週一回診察していたクリニックが平成 30 年 3 月に閉院し、これまでよりも遠くの医療機関に頼らざるを得ない状況となった

(4) 人口減少

(参考1) 湘南国際村の人口の推移



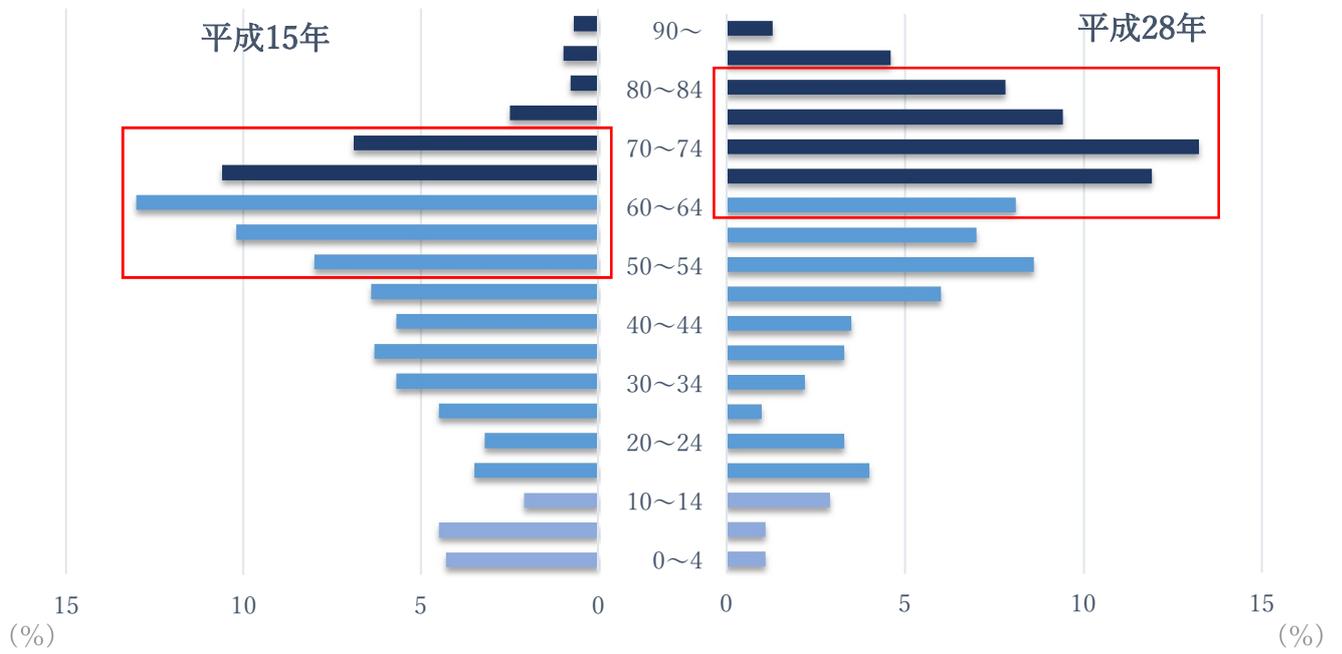
(参考2) 三浦半島の人口の推移



※ 平成28年3月 かながわ人口ビジョンより抜粋

(5) 高齢化

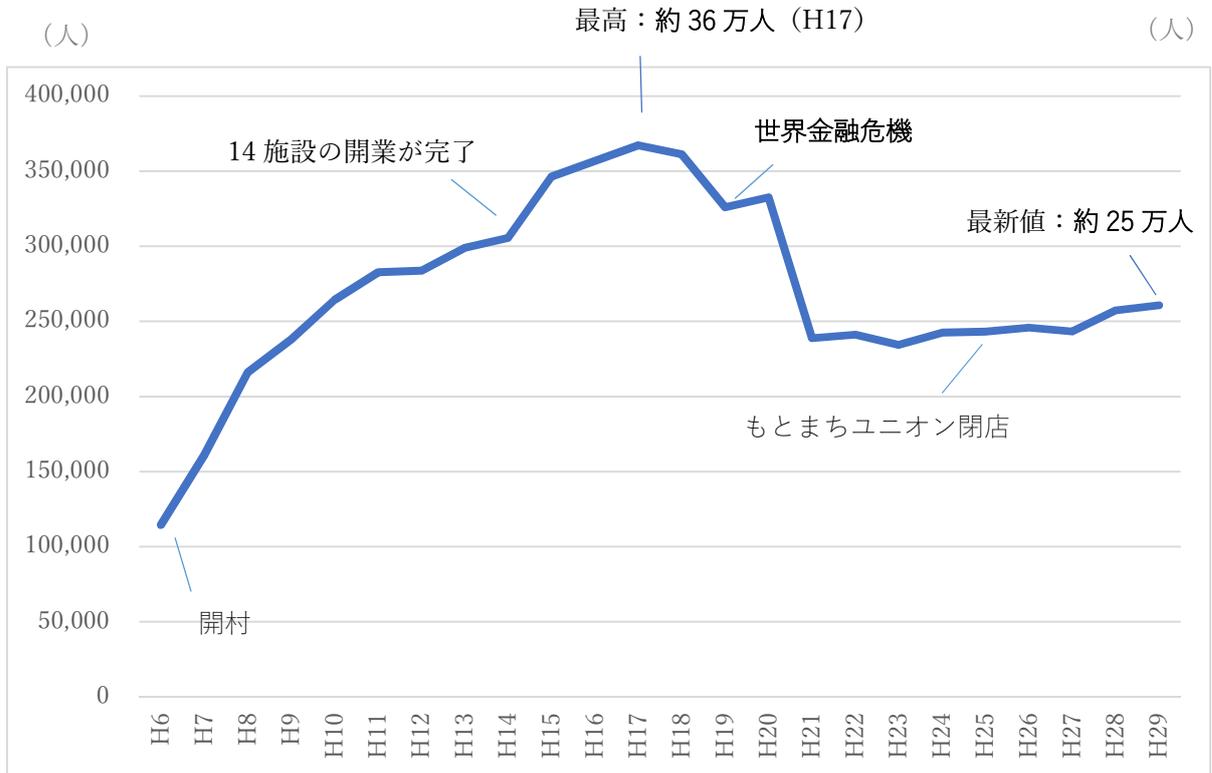
(参考3) 人口ピラミッド



※ 湘南国際村の人口を住民基本台帳ベース（横須賀市）で算定

(6) 来村者数

(参考4) 湘南国際村の来村者数



(7) 情報発信

- ・ ホームページなどでの情報発信が不足

(8) 連携促進

- ・ 入村機関同士、あるいは村外機関との連携が不足

(9) 湘南国際村センター利用者

- ・ 湘南国際村センター利用者がリーマンショック前に比べて減少した後、横ばい状態

(10) BC地区

- ・ 植樹活動や里山保全活動が進んでいるものの、県が認めた事業を除くと、めぐりの森は横須賀市道以外を原則立入禁止としているため、活用が十分進んでいない

- ・ これらの課題に対応するため、湘南国際村の活性化及び持続的な発展に向けて、
 - ・ 三浦半島全体の中での位置付け
 - ・ 県・横須賀市・葉山町の政策との連携
 - ・ 民間活力の活用
- 等の観点から、湘南国際村の10年後、20年後を見据えて、中長期的な視点をもって今から対策を考えていくことが重要

第2章 湘南国際村づくりの新たな展開

第1節 新たな展開の考え方

1 基本方針（目指す姿）

- ・ 湘南国際村の基本構想である「緑陰滞在型の国際交流拠点」としての理念を堅持しつつ、将来にわたる国際交流拠点としての継続を目指す
- ・ 今後も、緑の交流機能を高め、「全体が緑豊かな公園のような村」を目指す
- ・ さらに、湘南国際村は三浦半島の中心部に位置していることから、三浦半島の周遊の拠点としての位置付けを付加

- ・ これらによって、湘南国際村の活性化及び持続的な発展、ひいては三浦半島全体の活性化につなげる

2 地区の方針

(1) A地区の方針

- ・ A地区は、現計画では「村の理念を実現する地区」に位置付けられており、前回の改訂により、新たに福祉施設などの立地が進展

- ・ これまでも、村の中核施設である湘南国際村センターを中心に、「村の理念を実現する地区」として様々な事業を展開してきたが、今後も、国際交流拠点としての一層の機能強化に加え、三浦半島の観光地との回遊性の向上などにより、湘南国際村機能の更なる充実を図る

- ・ 住民から要望の強いバス便の確保や商業施設の充実等の生活利便機能や生活支援機能を促進し、生活環境の充実を図るとともに、コミュニティ形成の促進等、地域社会としての村の熟成を推進することにより、国際交流拠点として将来にわたって持続していくようなまちづくりを推進

(2) B地区及びC地区の方針

- ・ 今後も、大楠山に連なる緑を生かした交流機能の充実を図るため、B地区及びC地区を「大楠山の緑を活用した地区」とし、緑の再生と保全を図り、村内居住者や来村者が憩い、安らぎ、学び、交流するとともに、健康を育む場としての緑の空間の創造と、緑陰滞在型の国際交流拠点としての機能向上を高める地区として、活用を促進
- ・ 仮設駐車場として使用している箇所については、A地区に準じた機能の充実を図る（今後調整）

■ 現行の方針と新たな方針

地区	現在の方針	今後の方向性	地区	新たな方針
A地区	「村の理念を実現する地区」 「村の理念を実現する地区」として新たに位置付け、B地区及びC地区で計画していた交流機能をA地区へ集約し、湘南国際村機能の充実を図るものとします。	 <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来にわたる国際交流拠点としての継続 ・ 全体が緑豊かな公園のような村 ・ 三浦半島の周遊拠点 	A地区	これまでも、村の中核施設である湘南国際村センターを中心に、「村の理念を実現する地区」として様々な事業を展開してきましたが、 <u>今後も、国際交流拠点としての一層の機能強化に加え、三浦半島の観光地との回遊性の向上などにより、湘南国際村機能の更なる充実を図るものとします。</u>
B地区	「大楠山の緑を活用した地区」 大楠山に連なる豊かな緑を生かした、交流機能の充実を図るため、B地区及びC地区を「大楠山の緑を活用した地区」と位置付け、緑の再生と保全を図り、村内居住者や来訪者が憩い、安らぎ、交流するとともに、健康を育む場としての緑の空間の創造と、 <u>緑陰滞在型の国際交流拠点としての機能向上を高める地区とします。</u>		B地区	<u>今後も</u> 「大楠山の緑を活用した地区」として、 <u>緑の再生と保全を図りながら</u> 、村内居住者や来訪者が憩い、安らぎ、交流するとともに、健康を育む場としての緑の空間の創造と、 <u>緑陰滞在型の国際交流拠点としての機能向上を高める地区として、活用を促進</u> します。
C地区			C地区	<u>また、仮設駐車場として使用している箇所については、A地区に準じた機能の充実を図ることを検討</u> します。

第2節 新たな展開に必要な機能

1 A地区の現在の機能の位置付け

- (1) 研究・研修機能
- (2) 居住機能
- (3) 商業・業務機能
 - ① 商業施設
 - ② 業務施設
- (4) 教育・健康・福祉機能
 - ① 教育施設
 - ② スポーツ施設
 - ③ 医療施設
 - ④ 福祉施設
- (5) 公共公益機能
 - ① 集会施設
 - ② 消防施設

2 B地区及びC地区の現在の機能の位置付け

- (1) 防災機能
- (2) 交流機能
 - ・ 地区環境を構成する大楠緑地や子安緑地は保全し、緑の再生が進む緑地については、さらに緑の復元・再生を行うことにより緑の交流空間を創造
 - ・ 豊かな自然環境を生かして、居住者や来村者が憩い、安らぎ、学び、交流するとともに、健康を育む場、として活用することができる機能を位置付け
 - ・ 散策路や緑地広場の整備等も検討し、“緑陰滞在型の国際交流拠点”としての機能を拡充

3 新たな展開

(1) 機能強化の視点

目指す姿を実現するため、今後、次のような視点で取り組む

ア 三浦半島全体の活性化

- ・ 魅力向上、交流人口の増加、ひいては生活環境の向上

(湘南国際村の魅力をさらに向上させると同時に、発信力を強化することで、三浦半島の他地域と連携しながら交流人口(その地域を訪れる人)を増やす。それによって民間投資を促進し、サービスの提供や生活環境の向上につなげる、という好循環を生み出す)

イ 県・横須賀市・葉山町の政策との連携強化

- ・ 県で行っている未病改善などの取組みや、横須賀市、葉山町が行っている政策と、村内で行う事業との連携を強化

ウ 湘南国際村センターの更なる活用

入村機関の連携を進めるほか、企業等の活動、住民の皆様の交流の場として更なる活用を図る

(2) 強化する機能

ア 国際交流拠点としての一層の機能強化

- ・ MICE(国際会議等)の誘致促進など、基本構想に掲げた「国際交流拠点」としての機能を強化

イ 自然環境の再生と保全、活用の促進

- ・ 大楠山に連なる豊かな緑の空間が広がるBC地区の自然環境の再生と保全に取り組むとともに、活用を図る

ウ 回遊性の向上(観光ゲートウェイ)

- ・ 三浦半島の中心部に位置する強みを生かし、葉山、横須賀、逗子、鎌倉、三浦といった観光地との回遊性を向上させる拠点、観光ゲートウェイとしての機能を強化

エ 情報発信の強化・湘南国際村ブランドの維持向上

- ・ 湘南国際村における取組の情報発信を強化することで、交流人口の増加を推進するだけでなく、村内外の機関による新たな連携を促進
- ・ 相模湾と富士山を望む眺望を誇る、湘南国際村の持つブランド力を維持
- ・ さらに、最新技術やサービスの導入を図り、最先端のまちづくりを目指すほか、自然を活用した文化、芸術、スポーツ、レクリエーション機能の付加を図ることで、ブランド力をさらに向上

4 基本計画の改訂の方向

- ・ 三浦半島の周遊の拠点としての位置付けを付加することから、そうした機能を実現するため、土地の利用計画の見直しを行う。
- ・ そして、民間活力も活用しながら、にぎわいを生み出すことで、三浦半島全体の活性化につなげていく。